



### 『政権交代(一票革命)』・『価値観の革命』

革命には流血がつきものである  
税理士法人TACT高井法博会計事務所  
TACTグループ関連十二社代表  
税理士 高井 法博

八月三十日の衆議院選挙の結果、民主党は三〇八議席という大勝利を収め、『政権交代』を果たした。

#### 一・政権交代(一票革命)

惨敗した自民党も決して悪いばかりでもない。戦後の成長を追及するために平和憲法を制定し、天皇の位置づけを象徴へと変え、民法・商法の改正、教育制度の改革、労働組合の公認、言論の自由化等、画期的な変化を受け入れた。また各種政策も各論においては問題もあったが、諸外国から「株式会社日本」と言われた如く、自民党政権と官・民が一体となって努力し、いまや中国に抜かれそうになっているGDP世界第二位の座を勝ち取った。この功績は認めるべきである。しかし、欧米ではBRICsが大きく成長し始めるのを契機に、EU統合等を行い大きく体質転換を図り、市場を飛躍的に拡大することに成功した。この間本気で改革に取り組まなかった日本だけが取り残され、次第に成長も鈍化し、一人当たりGDPも世界第二位から今や二

十四位という状況となっている。

今回の選挙で痛感したことは、今まで永年自民党の支持者であった多くのお客様や様々な経営者から、民主党候補への推薦葉書を多くいただいたことであった。多くの人は、民主党には『不安』もあるが、それ以上に自民党への『不信、不満』から『一度は民主党にやらせてみよう』との意志表示が今回の選挙結果になったと思う。選挙後の世論調査では七十四%の人が民主党政権に期待すると答える一方で、民主党に對抗する政党として自民党に立ち直ってほしいという回答も七十六%あり、政党への期待よりも変化を求め、傾向が明らかである。新発足した鳩山政権は、天下りの排除を始めとする政と官の癒着排除やアニメの殿堂等の税の無駄遣いの排除等評価すべき点多い。しかし八ツ場ダムの建設中止等、五十年かけて意志統一し、計画の七割が完成しており、さらに地域住民の大多数の意見を無視し中止するのは、はるかに予算も多すぎか、こういう税の使い方は、多くの疑問点も多い。

小選挙区制のもとでは、国民の一票一票が政治に革命を起こすこととなる。今後二大政党が競い合つて良い政治をするという風土が日本に定着することを期待している。これを保証するのが日本の大衆の賢明な厳しい目であると思う。

#### 二・価値観の革命

リーマンショック以後中小零細企業の八十%が赤字を出している。あの名経営者と言われる堀場製作所最高顧問の堀場雅夫氏が「これまでの人生で今のように先が見えない『不透明感』は初めてである。戦争、その後の高度経済成長、ニクソンショック、そしてバブル崩壊などいろいろなことがあったが、現在、水面下で進んでいる変化は過去のどれにも当てはまらない。それは人々の『価値観の革命』と呼ぶべき現象である。これは今までの消費社会をガラリと変えるに違いない。しかし厄介なことに、その先にどのような社会が待ち受けているかは、誰にも分からない。」と述べておられる。一考に値すると思う。今までの日本企業は「いいものを作れば高く売れる」と確信し、ライバルとの開発競争を繰り広げ成功してきた。飲食業界での「餃子の王将」やアパレル業界での「ユニクロ」が独り勝ちなのは、景気悪化で低価格志向の消費者が増えたことも一因だがそれだけではない。

ホンダの「インサイト」やトヨタの「プリウス」が爆発的に売れているのはエコカーに対する減税・助成金の支給が奏功したこともあるが、決してそれだけではないと思う。ここ数年シワジワと進んできたのがリーマンショックをキッカケに一気に表面化してきた。この背景には少子高齢化、給料減少時代、地球環境の悪化等を踏まえ、消費者の持つ価値観の変化があると見るべきではないだろうか？そしてこの価値観の変化は、今後景気が盛り返しても不可逆的なものである気がしてならない。

#### 三・打つ手は常に無限にある。

社会の価値観に適合する商品やサービスを提供できない企業には存在価値はない。この『価値観革命』に素早く対応できた企業は独り勝ちの地位を得るし、そうでない企業は淘汰される。しかし悠久の人類・経済の歴史は、生成流転を繰り返しながらも成長発展の歴史でもある。今こそ地に足をつけて今以上に他を圧倒する程の勉強をし、打つ手を見つけ出し、経営計画書にしっかりと落とし込み、誰にも取れない努力を続けるべきである。どんな時代になっても『打つ手は常に無限である』と確信すると同時に今こそ真に経営計画書が必要な時であると確信する。